

博士學位論文審査結果の要旨

学位申請者氏名	太田 淳子
論文題目	要介護状態の高齢者に対する栄養マネジメントと、その実践のための給食経営管理
論文審査担当者	主 査 田中 清 審査委員 中山 玲子 審査委員 成田 宏史

本研究において著者は、管理栄養士が高齢者を正しく把握し適切な栄養マネジメントを行うために、重要ではあるが現在未解明の問題を取り上げて研究を行うとともに、多職種協同で給食経営管理を行う際に、管理栄養士にはどのような資質が求められるのかの検討を行っている。

まず栄養マネジメントについて、要介護状態の高齢者においては、推定エネルギー必要量を算出するのに必須の、身体活動レベル(PAL)を定めるのに適切な方法が定まっていないことからこの点を検討し、体重・栄養指標が一定の高齢者では、摂取量=必要量となるはずなので、エネルギー摂取量を測定し、これを基礎代謝量で割ることによりPALを求めるという新規の方法を開発した。

さらに食事摂取割合記録もまた、栄養マネジメントに必須の情報だが、介護老人保健施設においては、他職種により目測・記録されることが多いにも関わらず、どの程度の自己効力レベルを持って行われているのかに関する報告が乏しいため、この点を調査した。献立によっては非常に誤差が大きく、また視覚的に明確な9割摂取や1割摂取は誤差が少ないものの、3~7割摂取ではばらつきが大きいという結果であった。すなわち管理栄養士自身が情報を得る努力をする必要があるとともに、他職種との間で記録法などについて認識の統一が必要であることを示した。

また要介護高齢者の場合、家族など代理人から情報を得ることが少なくないが、その妥当性に関する報告が乏しいことから、検討を行った。介護老人保健施設入所者及

びその家族に対して、家族には高齢者本人の気持ちになって答えてもらったところ、QOLの精神的側面は本人より家族が有意に低く評価しており、本人においては入浴・睡眠などが施設に対する総合満足度に寄与していたが、家族ではこのような結果は得られず、たとえ家族であっても、代理人からの得る情報には注意が必要であることを示した。

次に給食経営管理に関しては、人事労務の観点から関連職種の食事や栄養に対する意識、および管理栄養士に求められる資質につき検討を行った。他職種においても全般に食事や栄養の重要性は認識されていたが、職種によって異なった面に関心を持っている、また管理栄養士は自分のスキル、調理職員は行っている作業が評価の対象となっている、さらに給食の評価において、管理栄養士は給食対象者を念頭に評価していたが、調理職員は提供している食事が評価の中心など、職種による顕著な相違を見出した。

最後に多くの職種によって構成される栄養部門の統一的運営のために、管理栄養士にはリーダーシップが求められることから、リーダーシップ研究で一般的に用いられる普遍的なリーダーシップの立場に立った分類であるPM(パフォーマンス・メンテナンス)理論・リーダー自身の対人認知の指標であるLPC(least preferred coworker)尺度・職務特性の測定を行ったところ、給食の運営において、特に管理栄養士のメンテナンス能力が影響することを見出し、メンテナンス行動を意識したリーダーシップの必要性を示した。

以上の研究は、高齢者の栄養マネジメントにおける未解明の問題点を明らかにするとともに、リーダーシップ理論を用いた管理栄養士の資質という、従来研究が皆無の分野を開拓したものであり、学術的価値が高い。また今後の高齢者に対する栄養マネジメント・給食経営管理の実務にも貢献できる内容であり、社会的価値も高い。

よって、審査員一同は本論文が博士(学術)の学位論文として十分に価値あるものと認める。